

あたまを耕すー 1

29期生の皆さん、高校入学おめでとう。先日初めて対面した尾崎神父です。高校の3年間という期間は、体も精神も大きく育つ時期です。何でも吸収してやるという意気込みでもって生活して下さい。こちらはその意気込みに応えられるようがんばりたいです。

でも、そのために私ができることは何かと三日三晩寝ながら考えました。体力がつくように指導する仕方も知らないし、音楽をやらせればみんなの方がずっと上手だし、勉強でも数学なんかはもう30年以上したことがないし、・・・というふうに悩んだ末、この種のプリントを地味に書いていて思想の世界を紹介できたら、という結論に達しました。

最近、2020年度から日本の大学入試制度が変わるという記事がありました。これからは暗記した知識の量ではなく、思考や判断など知識の活用力を問う、ということだそうです。それは、日本の学校の勉強は主に暗記が中心で、考える力がないという現状の認識から出てきた結論です。この傾向は実は今に限ったことでなく、昔から言われていました。しかし、グローバル化と言って海外との交流が昔よりずっと密になった結果、このままでは外国に太刀打ちできないという危機感が高じてきたようです。

そこで早速、予備校などはその対策に頭をひねっているようです。けれど、私は「うろたえるでない」と時代劇の殿様のように言いたい。入試対策を考える前に、ゆっくり「考える」べきことがあると思います。つまり、「考える人になれ」というけれど、考えるとはどういうことか、ということです。また「暗記して物を覚えることはレベルが低いことか」ということも考える価値がある。つまり、「考えよう、考えよう」と言う前に、はっきりさせておかないといけないことがあるのではないのでしょうか（簡単に言うと「ある」ということ）。



このようなこと、すなわち「考えるとは何か」とか「何が価値のあることか」など、ものごとの最も根本的なことを考える学問があります。それが哲学と言われる学問です。ものごとの究極的な点について議論しても、自動車が作れるわけでもないし、病気が治るわけでもない、そういうことのためには物理や生物を勉強しないといけないというわけで、残念ながら日本の学校には哲学という授業はありません。ただ、高校なら「現代社会」と「倫理」という科目に出てきますが、この二科目はいわゆる主要5教科に比べてマイナーな科目という感じを免れません。私は宗教の時間に哲学の歴史を説明しますが、哲学という学問は物理や化学や歴史よりもずっと昔からあり、すごく長い間にわたって研究されてきた学問なので、わずか数時間で説明できるものではありません。そこで、このプリントを利用させてもらおうというわけです。

ただし最初に断っておきますが、私が大学で専攻したのは哲学ではなく、西洋の歴史です。ただ、神父になる前に哲学を多少勉強し、その後も折に触れては勉強しているので、まったくの素人でもありません。みんなの役に立つことを言うだけの能力はあると思います。

では「考える」に戻ります。そもそも「考える」とは人間なら誰でもすることです。アリストテレスが「人間は理性的動物である」と定義したように、人間を動物から隔てる特徴の一つが、「理性的」つまり「考える」ということです。動物は考えません。だから、逆に言うと、もし考えずに行動だけするなら、それは人間というよりむしろ動物に近いものになる。もちろん、人間がまったく何も考えずに行動するということはないのですが、ほとんど考えずに行動するということは起こり

得ます。

たとえば、勉強。考えずに勉強することはあるのでしょうか。はい、例えば、ただ先生に言われたとおりに、言われたことだけを勉強するという態度です。授業中先生の言うことに耳を傾け、黒板に書かれたことをきれいにノートに写し、出された宿題をきっちりしてくる。これらはすべて勉強の基本であって、とても重要なことですが、もしこれだけで十分と考えるなら、それは動物のように何も考えずに勉強しているということだと思います。

では本当に勉強するとはどういうことか。哲学によれば、「本当に或ることを知る」とは、そのことの原因について知っているということです。実は原因にもいろいろあって、確かに「何」**what**も原因なのですが、もう一つ「なぜ」**why** という原因もあります。つまり、「なぜ」を追求しながら勉強するということです。上述したように私は歴史が専門なので、歴史を例に取りますと、例えば「鎌倉幕府は1192年に源頼朝によって立てられた」ということを習ったら、1192年という年号と人物の名前を覚えたら終わりではない。「なぜ1192年に、なぜ頼朝が、なぜ鎌倉に幕府を立てたのか」という問いに答えられるように勉強するのが、「考えながら」勉強するということなのです。ただし、こういう仕方ですべて5教科勉強することは時間的に不可能でしょうから、メリハリを付けて勉強して下さい。

あるいは運動クラブも。何も考えずにするとは、単に練習メニューをこなすだけ、あるいはコーチの言うことに従うだけの人です。そうではなくて、この練習の目的は何かを考えながら、自分には何が欠けているか、どうすればその欠点を克服することができるか、など目標を定めて、それに至る道を探していくことです。

いずれ詳しく説明しますが、「考える」ためには「見る」必要があります。よく考える人は、まず周りにあることをよく観察しています。観察のために使う道具が目や耳などの五感ですが、それらの五感は精神〔心〕によって支配されています。精神が目覚めていること、これが大切です。でも精神も肉体もずっと働いていると疲れるので、ちゃんと休ませないといけない。つまり、毎日睡眠をしっかり取って下さい。「〇〇大学に行くには6時間以上寝てはいけない」とかいうことを言っている人がいましたが、それはでたらめのようなものです。アメリカの大企業で働く企業戦士でも7、8時間寝ているという記事を読んだことがあります(どこで読んだか思い出せないのですが、信用しなくてもよいですが)。夜はしっかり寝て、昼はしっかり体と精神を働かせて下さい。夜は遅くまで起きて学校で寝ているのは、結局すごい損になります。



このようなことをだらだらと書いていこうと思っています。「こんなこと何の役にも立たへんやろ、資源の無駄や」と馬鹿にして、せっかくのプリントを便所の紙にしてしまうような恐ろしい考えを持つ人はいないと思いますが、念のため言っておきます。いつか気が向いたときに読めるようにできればファイルに保存しておいて下さい。